

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470700713		
法人名	有限会社ころ		
事業所名	グループホームころ		
所在地	三重県松阪市八重田町485-2		
自己評価作成日	令和2年6月15日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigvosvoCd=2470700713-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和 2 年 7 月 15 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・ 認知症の進行と重度化にともない、リフト、機械浴、エアマット等を導入し、身体に合わせた介助をし、看取りまで行っている。
- ・ 一日の生活の中で、その人らしい楽しみがもてるようレクリエーションや体操、作品作り等を行っている。
- ・ 災害時に生活が維持できるように、非常用の発電機を設置し、災害に備えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設16年の事業所は毎年年間目標計画を立て、利用者の認知症の進行と重度化に合わせソフト面・ハード面の対応を行い、利用者のQOL保持に努めている。常勤看護師は協力医と協力し医療面での支援を充実させ、介護負担を軽減し看取りの介護に取り組んでいる。利用者および家族は安心して生活が送れ、終末期を迎えられている。また、離職者は少なく長期在職勤務者が多く、利用者は見慣れた顔の職員にケアされ、安心して穏やかに生活している。職員間はチームワークも良く、利用者の個々に合ったケアプランの提案を積極的に提供し合い、ケアのステップアップに繋げている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当社の理念の「その人らしい生き方を尊重して生活の援助を行う」を基にして、月1度のカンファレンスや各申し送り等、又は随時の話し合いで共有し、介護の実践に繋げている	「その人らしい生き方を尊重し、生活の援助を行う」を理念に掲げ、職員各自が毎月のカンファレンスで積極的にケアの提案を全員で話し合い、その人に合ったレクリエーション(なぞなぞ・じゃんけんゲーム・歌の種類等)の工夫をし実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前は地域の夏祭り等に参加をしていたが、重度化により、参加が難しくなってきた。地域のボランティアと催し等を通して交流している	自治会に入会していて、代表者が自治会活動に参加している。併設のデイサービスと共に地域ボランティアや幼稚園児との定期的交流がある。また、近隣を散歩し地域の方との交流も利用者の楽しみになっている。傾聴ボランティアは、月4～6回受け入れている。また、介護の実習生も受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェに参加者の希望者がある時は、開催し、介護者の悩み、雑談等をして癒しの空間を作っている。職員が認知症研修会の講師として、地域に出向いている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、活動報告や症例報告、ヒヤリハット、事故事例も報告、出前講座等も開催して講演会も行った	2ヶ月に1回運営推進会議を開催している。内容がマンネリ化しないようにヒヤリハット報告書等を入れて、近隣の住民や民生委員・市職員・包括支援センター職員と情報交換している。現在はコロナ禍で開催出来ず、電話で情報交換している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険課に、制度に関する相談や、2ヶ月に1回行っているグループホーム部会に参加をして、情報を共有したり、お互いの施設見学や研修等をして、協力関係を築いている	市と協力しグループホーム部会が、2ヶ月に1回開催されている。施設見学・研修会など設け、市と共にグループホームの質向上のための協力体制作りを努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアの勉強会を年2回、委員会も4月から開始し、勉強会を年に2回開催し、常日頃から、全職員の共通認識として、意識付けに取り組んでいる	身体拘束については毎月のカンファレンス後、身体拘束事例検討会・運営推進会議でケア実践の振り返りを行い、身体拘束をしないケアに努めている。	身体拘束に関しての会議を一本化した記録を活用し、今後の更なる身体拘束をしないケアへの取り組みに期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待に関する研修を、社外、社内で学ぶ機会を持ち、事例等を通して、虐待は犯罪であるという事も意識づけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内、社外研修にて、権利擁護に関する制度の研修に出向いたりして、必要性があれば活用できるようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をかけて入居契約時には、十分な説明を行い、又、介護保険改正時には、書面で連絡をしたり、面会時にも十分な説明をして理解を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時には、日頃の様子を詳しく説明し、家族の意見、要望も聞き出している。また要望箱も玄関に設置している	毎月、家族が利用料金の支払いに来るシステムにし、その時利用者の近況を伝え、家族の意見を聞いている。2ヶ月に1回「こころのたより」を発行し、近況の個別コメントを追加記入し家族に手渡している。利用者の入居後の笑顔出現を家族から嬉しそうに伝えられ、職員のモチベーションアップに繋がっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスや随時の話し合いで情報共有し、提案があれば、代表者会議等で話をして試行し、工夫して先に進めている	職員間の意見交換は、日常の如く行われている。離職者もなく、職員間のチームワークが良く、管理者は様々な提案を受け入れている。寛容な姿勢とゆったりした介護の提供が職場環境環境にあり、管理者はストレスのない働きやすい職場環境を提供している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格や経験、実績を考慮して個々のやりがいに繋がるように努め、向上心が持てるように職場の環境整備もしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職員や経験の浅い職員には、日常的に指導している。研修の機会は内外に求め、出来るだけ多くの職員が参加できるように考慮している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県と市の同業者の協議会に於いて、研修や活動を通じて交流し、学びあう機会をもっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学や体験を行ったうえで入居し、生活に慣れるまでは、環境の変化を考慮し細かく気配りをしながら信頼関係を築く努力をしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安や困りごとを十分に聞き、連絡を密にとり信頼関係を作り上げていく		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームでは完結型の介護の仕方をしているので、必要とされることをホームに於いて多用途に工夫をしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の主体性を重んじ、その時できることで張り合いが生まれるような生活を組み立てる		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の情報は家族と職員が共有し、共に支えていく姿勢で支援している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人の面会や外出、傾聴ボランティア等の受け入れで、なじみの関係が続くようにしている。外出が困難になった場合、当時の写真等で昔の思い出話など、回想法を用いたりしている	家族の訪問時に花見などで外出をしている。傾聴ボランティアの活用や写真・歌などによる回想法を活用し、馴染みの場所・人等の回想に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日、午前中は皆が集まってレクリエーションをしている。午後も居室にこもることのないように声かけをし、その人にあった関わりをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院入院時は一旦退去となるが、毎日職員が見舞いに行き、馴染みの関係が続くようにしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思疎通が困難な方の思いの把握は、寄り添うことで気持ちを把握したり、家族の情報も参考に推しはかっている。	意思表示出来る利用者は1名のみで、他の利用者には寄り添うことで表情・動作で意思疎通が出来ており、カンファレンスで情報交換し共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	意思や思いの把握は難しくなっているが、家族の要望もふまえて、安全で穏やかな生活になるように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの身体状態・精神状態を把握し、ケアプランに沿ってその日の暮らし方を支援している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスで介護の方法や現状を職員全員で話し合いモニタリングをし、家族からの意見も聞きつつ皆で共有して介護計画を作成している。	毎月カンファレンスで、担当職員・家族の意見を基に、職員全員でモニタリングし、介護計画を作成している。3～6ヶ月で評価を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は気づきや工夫を客観的に詳しく記入し、職員間の情報共有に役立っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟に対応し、突発的に起こる不穏症状など、日々の変化に応じて画一的な支援にとられないように取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全で穏やかな生活でできるよう、地域の民生委員やボランティアなどの支援を受けられるように心がけている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医には、看護師が日頃の様子を報告し、家族の意向を伝え、適切な医療に繋げている。	かかりつけ医は全員在宅医療クリニックの医師で、月1回の訪問診療を受けている。夜間緊急時にも対応しており、常勤の看護師が日々の状態を管理し、医師に報告している。受診結果は看護師より家族に連絡している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常でとらえた気づきなどは、看護師に相談している。常勤看護師が、日常の健康管理と看護業務を行い、24時間体制で医師との連絡もとっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	毎日職員が病院に出かけ、馴染みの関係が途切れないようにしている。病院のケースワーカーとの連携も行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期が近づけば、家族、主治医と話し合いを重ね乍ら希望者には看取り介護を行っている。看護師の24時間体制で、家族、医師と連携を密に取り、職員全員でその人らしい最期を見守る看取りを行っている	終末期・看取りマニュアルも整備され、看取りの研修も定期的に行っている。利用者全員が看取りを希望しており、今年度も2例の看取りをした。全職員が終末期までの支援の思いを共有し、看取り後はそのケアの反省・振り返りをし、次へのケアステップアップに繋げている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者個々の事故発生のリスクは常より把握して、職員が共有し、事故防止に努めている。救急法の研修も行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月1回定期的に自主的に「夜間想定避難訓練」を実施し、会議で反省点や改善点を検討している。また、非常用発電機を設置して災害への備えもし、ハザードマップ上での危険に対しても備えている。	「夜間想定避難訓練」を月1回行い、毎回反省点や改善点を検討している。非常用発電機も設置し、防災意識を高めている。また、自治会防災訓練に代表者が参加し、協力関係を深めるように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを損ねないように個々の認知度を理解して介護する時の声かけ排泄誘導などには、配慮している。利用者同士に混乱が生じないように、食卓の位置を変えて、双方の尊厳を保つ工夫もする	排泄時の声掛けに特に注意している。利用者の生活歴の情報、及び入居後の家族からの追加情報を踏まえ、プライバシーを損ねない対応が出来るよう努めている。呼び名は希望を聞いている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々に寄り添って、思いや希望を引き出せるように話かけ、表情を読み取ったりして自分で決めることができるように働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大事にして、画一的な援助にならないように趣味、運動、休憩等を組み立て支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の理解度に合わせ、好みの衣類選びをしたり、化粧のアドバイスをしたり、その人らしさが出せるよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在は食事の準備を共に出来る人はいないが、食材の下準備やテーブル拭き、介助に食事の内容を説明しながら、楽しい雰囲気を作り、安全な食事介助をしている。	要食事介助者が多く、ワンプレートにして、残食を減らす工夫をしている。職員が事業所の菜園で収穫した野菜で漬物を作ったり、旬の取り立て野菜を食材として提供している。行事食も提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量と水分量は記録して、体重も目安にして、食事量や栄養バランスを考えている。その人に合わせた食事形態にも気をつけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは、全員が確実に行うように支援し、口腔内に異常があれば、歯科往診も行い口腔状態の確認もしてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄リズムの把握や言葉かけで、言えない排泄サインを見逃さないようにしている。状態に合わせて、個々にあったパット、オムツを使用している。	リハビリパンツ使用3名、おむつ使用者6名で、排泄表を見て、2～3人の介助者でトイレ誘導している。トイレで排尿まで15分以上かかる利用者が殆どで、利用者のリズムに合わせてゆっくり支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならないよう排泄パターンを理解し、食材を選び、体操等で体を動かして便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	全介助の方が増えてきおり、自分で希望を言われることは難しくなっているが、個々の身体の状態に合った入浴を楽しんでもらっている。	週2回午後入浴で、昨年度機械浴が入り、車椅子の利用者もゆっくり温かいお湯に浸かってもらう事が出来る。全介助の利用者が多いが、個々の身体状態に合った入浴を楽しんでもらえるよう努めている。ゆず湯・菖蒲湯も提供している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はできるだけ活動的な生活を目指し、昼寝で小休憩したり、掃き出しで日向ぼっこをして、夜は安眠できるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師や薬剤師の指示のもと、看護師と職員が服薬支援を行っている。症状の変化時は、看護師が医師に報告し、指示を受けている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションや趣味活動をすることで、生活にメリハリやがで、楽しみが見つけられるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	家族、知人との外出は希望があれば行っている。戸外に出る機会は少ないが、天候や体調をみながら、散歩や外気浴をしてい気分転換を図っている。	家族の訪問時は外出しているが、介護度平均4以上なので花見など集団行事外出は出来ないの、事業所周辺の散歩・外気浴を積極的に勧めている。事業所周辺は田園風景や山が見え、玄関には花壇があり、四季を味わえる。地域の方々と触れ合う機会もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	物盗られ妄想のため、他者とトラブルになり家族の依頼で事務所預かりとなっている方も居る		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人からの電話は、子機を使って居室で自由に話している。外部へかける支援も行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、仕事をしている職員の話し声、テレビや歌声、台所から聞こえる調理の音など、生活感が感じられることで、安心感が生まれ、居心地良い空間となっている	台所からリビングが一望で、利用者の動きにすぐ対応でき、危険解除出来たり見守りが出来る。また、台所の食事の準備風景が見え、生活感を与えている。廊下は広く移動時の安全を確保しており、ちぎり絵やカレンダーで、季節感を出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれに居場所をもてるよう、自室以外に玄関から外が見える椅子やテレビの前、居室からの外の眺め、思い思いに過ごせる工夫をしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時は、なじみの家具や置物を持って来てもらっているが、認知症の進行と共に歩行器や車イスが必要となり、安全な空間が優先となってきている	車椅子利用の利用者が多いので、居室は物配置を少なくして、安全を確保している。壁には、家族の写真や作品など回想法に利用できる物を飾っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は完全バリアフリーで、職員が目が行き届くように、死角場所は無く、安全な環境づくりに努めている		